

プロジェクト成果

2024年度 ケンブリッジ大学



大学入試 × デジタル化

入試手続きにマイナンバーカードを使ったらどうなる？
利便性と公平性をどう両立した新しい大学入試手続きとは。

日本におけるデジタル化した大学出願システムへの需要の高まり

電子出願に関する文部科学省や政府の指針の確認した所、電子出願の推進に関する言及が「大学入試のあり方に関する検討会議」にてあり、指針として推進をすることとなっている。電子出願可能な選抜区分を見ると、一般入試は高いが、AO入試や推薦入試は低く、これらは英米等の入試と似ているため、システムの構築によっては可能になり得ると考察。

導入推進理由

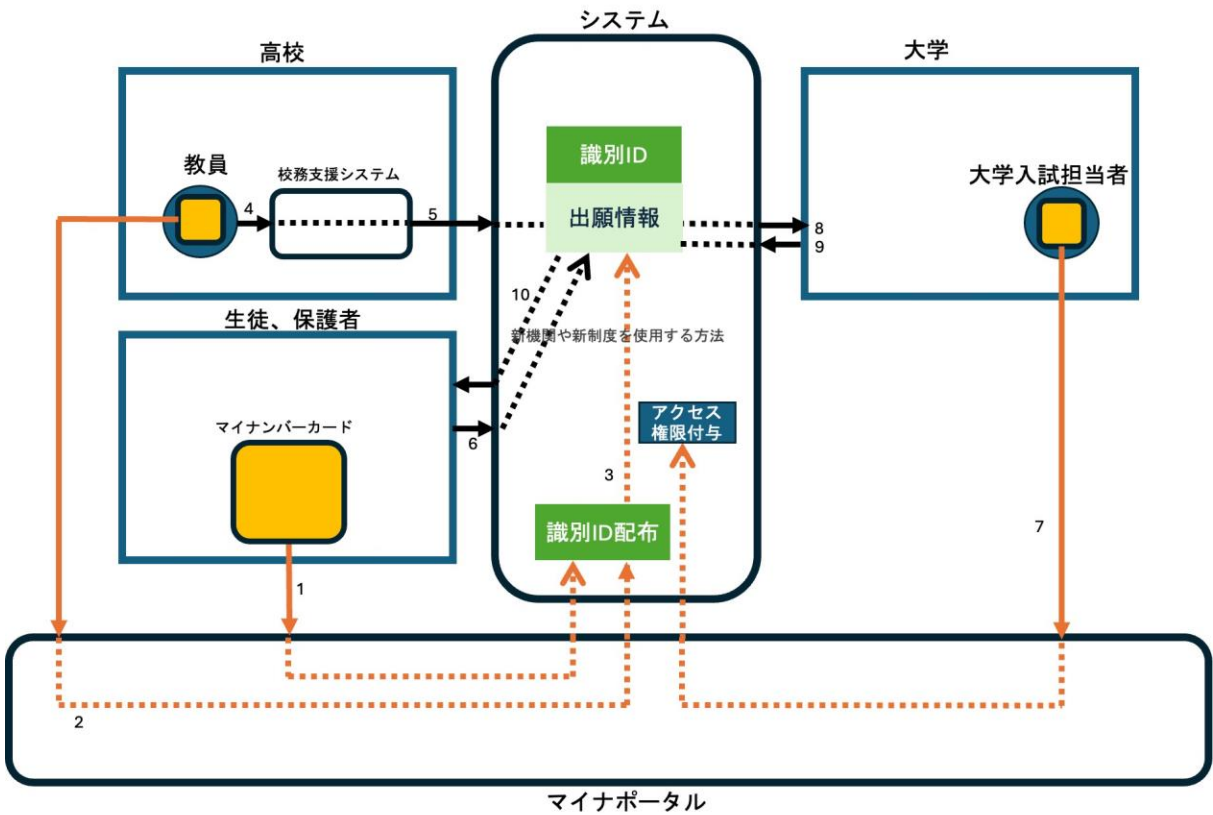
- ・ コロナ禍を契機としたデジタル社会の形成
 - ・ 大学入学者選抜においても、デジタル化が必要
 - ・ 教育分野のデジタル化のための社会全体の基盤整理
 - ・ 各大学の電子出願導入の増加
 - ・ 電子出願可能な選抜区分
 - 一般入試：90.5%
 - AO入試：56.8%
 - 推薦入試：58.9%
- ⇒ 一般入試よりAO入試や、推薦入試と形式の類似している英米仏の入試でのシステムを参考に

留意事項

- ・ 格段に多い出願者数に対応できるシステムの安全性とセキュリティ確保
- ・ デジタル環境を有しない志願者への配慮
- ・ 現役生の出願における高等学校の関与の必要性の有無
- ・ 共通テストの成績通知時期と日程見直し
- ・ 高等学校における統合型校務支援システムでの活用

マイナンバーポータルを使用する関係図とシナリオによる整理

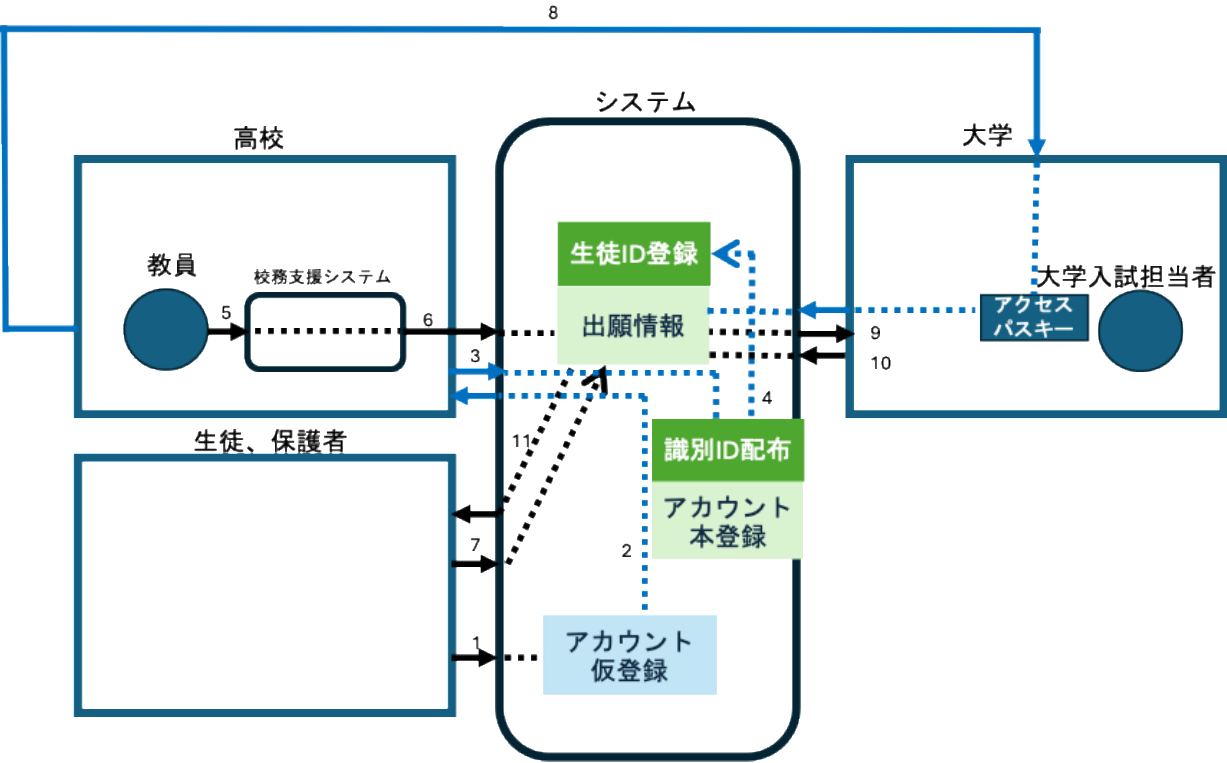
日本におけるデジタル化した大学出願システム導入の検討として、マイナンバーポータルを使用する場合の関係図とシナリオによる整理を以下にまとめる。



0	大学および教員はすでにアカウントを開設している状態である
1	生徒、保護者はマイナンバーカードを利用し、マイナポータルの「もっとつながる」から、独立行政法人（仮定）が運営する外部システムでアカウントを作成する。その際に生徒は在籍する学校やクラスを入力するが、間違いを防ぐため、事前に学校側が生徒に配布しておいた学校別パスキーを使用する
2	教員が自校の生徒として登録された情報を確認し、認証する（生徒の偽アカウントの三重の防止）。それにより、生徒に識別IDが配布される
3	識別IDがシステム内の高校側ページに共有され、その高校の生徒としてアカウントの登録がなされ、その際に識別IDが入力された基礎情報（氏名、住所、性別など）と紐付けられる
4	教員は校内に整備済みの校務支援システムに生徒の成績や指導内容などを入力する
5	教員は手動で校務支援システムに保管されている成績のうち、大学出願に関係のある箇所のみを抽出し、形式にあったようにシステムにアップロードする
6	生徒はシステム上にて出願情報の確認、編集等を行う
7	大学入試担当者がマイナンバーカードを利用し、厳格な本人確認のもと、システムにおいて出願した生徒情報へのアクセス権限を付与される
8	システムのサイトにおいて、本人確認が済んだ状態で生徒情報にアクセスする
9	2次試験の案内や、可否判定など必要な情報をシステムで公開する
10	システムから生徒に2次試験の受験票のダウンロードや、可否判定などの通知を行う

マイナンバーポータルを使用しない関係図とシナリオによる整理

日本におけるデジタル化した大学出願システム導入の検討として、マイナンバーポータルを使用しない場合の関係図とシナリオによる整理を以下にまとめる。



0	大学および教員はすでにアカウントを開設している状態である
1	生徒・保護者はシステムに直接、氏名・性別・住所等の基礎情報を入力する 教員による機微な個人情報の外部への入力は制限が多いため、この形式をとる。この際、関係図1と同様に学校別パスキーを入力することで、誤って他校に登録することがないようにする（アカウント仮登録）
2	高校教員は自校生徒として登録を要請したアカウントを必要最小限のデータ（氏名など）からまず確認をし、自校生徒と認識した場合は、学校で保管されている資料などを参照し、当該生徒の入力した住所等の情報に誤りがないかを再度確認をする（1の自己申告の場合、入力に誤りがある場合があるため、教員の確認が必要となる）
3	教員の確認が取れた場合、アカウントは正式に本登録され、識別IDが配布される。これにより、識別IDに紐付けられた基礎情報は正確性の高い情報であるとして、その後の出願でもそのまま使用される。しかし、公的な認証ではなく、人の目による確認であるため、入学時などには大学が別途郵送などの方法で確かめる可能性もある
4	識別IDがシステム内の高校側ページに共有され、その高校の生徒としてアカウントの登録がなされ、その際に識別IDが入力された基礎情報（氏名、住所、性別など）と紐付けられる
5	教員は校内に整備済みの校務支援システムに生徒の成績や指導内容などを入力
6	教員は手動で校務支援システムに保管されている成績のうち、大学出願に関係のある箇所のみを抽出し、形式にあったようにシステムにアップロードする
7	生徒はシステム上にて出願情報の確認、編集等を行う
8	高校は大学側に生徒情報へのアクセスパスキーを別の媒体を利用して送付する。これは、大学入試担当者がマイナンバーによる厳格な本人認証を行っていない場合であり、大学入試担当者がマイナンバーによる本人認証を行っていれば、パスキーを使用する必要はない（どちらも本人確認の回数は変わらない）
9	システムのサイトにおいて、アクセスパスキーをもとに、生徒情報にアクセス
10	2次試験の案内や、合否判定など必要な情報をシステムで公開する
11	システムから生徒に2次試験の受験票のダウンロードや、合否判定などの通知